

## 事業名：江別ブランド推進事業

商工労働課 主査（商工労働）

政策	02 明日につながる産業の振興								
施策	02 工業の振興と産学官連携の推進								
基本事業	01 産学官連携による技術協力ネットワークの推進								
開始年度	平成15年度	終了年度	平成25年度	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	

<b>事務事業の目的と成果</b>	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
市民	
手段（事務事業の内容、やり方）	
経済ネットワークや個別プロジェクトによる「地域ブランド」の掘り起こしを行う。	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
新たな「地域ブランド」の育成を行い、地域資源として定着させる。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	市民	人	121,705	121,385	120,802	0
対象指標2						
活動指標1	地域ブランド検討件数	件	2	2	1	0
活動指標2						
成果指標1	プロジェクトが立ち上がった件数	件	0	0	0	0
成果指標2						
事業費(A)		千円	52	17	45	0
正職員人件費(B)		千円	2,408	2,405	2,344	0
総事業費(A+B)		千円	2,460	2,422	2,389	0

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	・江別経済ネットワーク、セラミックス交流会の活動を通じた地域ブランドの周知・普及	・ドメイン使用料 7千円 ・「北海道遺産」ロゴシール作成 21千円 ・「江別小麦ものがたり」しおり作成 17千円

<b>事業を取り巻く環境変化</b>	
<b>事業開始背景</b>	
将来の市民協働を睨みつつ、産学官連携と地域経済の活性化の基礎づくりのために事業を開始した。	
<b>事業を取り巻く環境変化</b>	
江別ブランド事典は平成19年度より管理運営主体が札幌学院大学電子ビジネス研究センターとなり、コンテンツの大幅な見直しと更新作業を行った。現在はシステムのバージョンアップを含め、リニューアルに向けたメンテナンスを行っている。 また、22年度からは江別市の特色である「食」について、地場産品の高付加価値化や道内外への販路拡大を図り、江別ブランドの発信を行っている。	

<b>平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）</b>	
<b>(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？</b>	
妥当である 妥当性が低い	<b>理由根拠</b> 「産学官連携」「市民との協働」「地域ブランドの形成」の推進は、他地域との差別化・地域経済の活性化を図るために必要な事業である。
<b>(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？</b>	
貢献度大きい 貢献度ふつう 貢献度小さい 基礎的事務事業	<b>理由根拠</b> 産学官連携により企画した事業を実施しており、産学官連携による技術協力ネットワークの推進が期待できる。
<b>(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？</b>	
上がっている どちらかといえば上がっている 上がらない	<b>理由根拠</b> 産学官連携組織のセラミックス交流会によるミニチュアレンガの開発を通じて、北海道遺産となっている「江別のれんが」のPRにつながるなど一定の成果が出ている。
<b>(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？</b>	
成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし	<b>理由根拠</b> 方法次第で波及効果が広がる可能性があり、産学官が連携し、市民との協力により実施することで成果向上の余地がある。
<b>(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありますか？</b>	
ある なし	<b>理由根拠</b> 産学官が連携し、市民との協力により実施することで低コストでの成果維持が期待できる。